

コロナと学生 ～総合文化学科の学生意識調査～

The Coronavirus and Our Students

～A Survey of Student Attitudes in the Department of Arts and Sciences～

Dustin Kidd

(総合文化学科)

キーワード：新型コロナウイルス、アンケート、遠隔授業、対面授業

1. はじめに

この報告書を書くことになったきっかけは新型コロナウイルスの影響だった。授業の制限ももちろん出ていたが、研究分野によってはなかなか思うようにできない先生もいるだろうと考え、年度初めに筆者は総合文化学科での共同研究を提案した。個々の教員が新型コロナウイルスによって、授業にどんな影響を受けたかをまとめて書いて、そして学科の学生にアンケート調査して、その結果を分析し、報告書にまとめてはどうかという内容だった。特に、学生の立場から現状を見直すことは、学科の教育について考える機会になるのではないかと思った。結果的に、この報告書は学生へのアンケートの内容のみとなったが、学生の様々な意見から何かと参考になれば幸いである。

2. アンケートについて

1) 実施に当たっての留意点

年度初めに提案してから、毎日の業務と遠隔授業システムに慣れる努力で、あまり具体的に動いていなかった。対面授業が一部許されてから、遠隔と対面を比較することもできると考え、質問項目に学生にその比較をしてもらうようなものも入れた。新型コロナウイルスの影響で、1年生は「通常」の大学教育を経験していなかったため、質問項目には高校時代の対面授業と大学の遠隔授業を比較する質問項目を設けた。2年生の質問では1年生のものと少し違う表現を使った。

もっともこのアンケート調査で気を付けたのは「匿名性」である。アンケートに回答することは自由で、まったく強制的ではないことを伝えた。また、結果は成績に一切影響がなく、アンケート結果に名前が出ないこと、つまり匿名回答という設定になっていることも伝えた。これらの点をしっかり伝えたいので、春学期のアンケートは Teams と Forms を用いて7月に実施した。

秋学期のアンケートについては、春学期の結果と比較できるように、似た質

問項目を作った。全体的に見ると、春学期のアンケートより質問の数を少し減らした。新しく設けた質問は遠隔授業・対面授業・遠隔と対面それぞれの数を報告してもらうものだった。春学期と比べて、授業形態が少し自由になったため付け加えた。

学生にアンケートの協力をお願いしたとき、春学期のアンケートと同様な設定にして、回答することが自由で、匿名回答になっていると伝えた。実施時期は1月の下旬とした。

2) 質問項目

(1) 春学期のアンケートの場合

1年生の質問項目は次の通りである。①遠隔授業は何を用いて受けましたか。②機器的な問題は何か起こりましたか。(例：音が途中で聞こえなくなった、など)③2.で「はい。」と答えた人は、具体的にどんな問題が起こりましたか。④遠隔授業を受けてみて、高校までの対面授業と比べて、どうでしたか。(全体評価として)⑤対面授業のどの点がよかったか。⑥どの点が変わらなかったか。⑦遠隔授業のどの点がよかったか。⑧対面授業と遠隔授業の一番大きな違いをどこに感じましたか。⑨遠隔授業になってよかったことはありましたか。⑩9.で「はい。」と答えた人は、具体的によかったことを書いてください。⑪遠隔授業になってよくなかったことはありましたか。⑫11.で「はい。」と答えた人は、具体的によくなかったことを書いてください。⑬今後、遠隔授業をすとしたら、どのような配慮をしてほしいですか。⑭遠隔授業について、何でも自由に記述してください。

④の質問の回答は三つの選択肢があった。「対面授業のほうがよかった。」、「遠隔授業のほうがよかった。」、そして「対面授業とそれほど変わらなかった。」だった。回答によって進む質問が変わった。また、自由に回答できる質問を多く設けた。

2年生の質問項目は1年生とほぼ同じであるが、④は高校のことに触れず、「遠隔授業を受けてみて、対面授業と比べて、どうでしたか。(全体評価として)」のみだった。

(2) 秋学期のアンケートの場合

1年生の質問項目は次の通りである。①秋学期で、遠隔授業、対面授業、遠隔と対面両方の授業はそれぞれいくつありましたか？(回答例：遠隔3 対面2 遠隔と対面1)注：年明けの全面遠隔期間を除いて、ご回答ください。②遠隔授業は何で受けましたか。③機器的な問題は何か起こりましたか。(例：音が途中で聞こえなくなった、など)④3.で「はい。」と答えた人は、具体的にどんな問題が起こったかを書いてください。⑤対面授業と比較して、遠隔授業のほうが良いと思ったところはどこですか。⑥遠隔授業の問題点・改善して

ほしい点は何ですか。⑦遠隔授業について、何でも自由に記述してください。

2年生の質問はほぼ同じだったが、自由記述の前に、一つ質問を設けた：⑦遠隔授業と対面授業の一番大きな違いは何だと思えますか。これを設けた理由は2年生の大学生活の振り返りという意味を含めたかったからである。

3. アンケート調査の結果と考察

1) 1年生の春学期アンケート

令和2年度の1年生は44人在籍し、そのうちの34人(全体の77%)が春学期のアンケートに回答した。まずは学生の遠隔授業の受け方の実態を知るべく、「遠隔授業は何で受けましたか。」の質問を設けた。4つの選択肢(スマートフォン、ノートPC、デスクトップPC、タブレット)を提示し、複数回答を可能にした。そうすると、スマートフォンで授業を受けた学生は24人(スマートフォンのみが13人)、ノートPCは18人(ノートPCのみが8人)、デスクトップPCは3人(デスクトップPCのみは2人)、そしてタブレットを利用した学生はいなかった。複数の機器を使った学生は11人いて、スマートフォンとノートPCは10人、スマートフォンとデスクトップPCは1人だった。全体で見るとスマートフォンを利用して遠隔授業を受けた1年生が71%であった。総合文化学科では、学生が必ずノートPCを購入する決まりがないので、スマートフォンが最も利用される機器となったのは当然の結果だと考える。

次に、「機器的な問題は何か起こりましたか。」に対して、34人中24人(71%)が「はい」と答えた。具体的にどんな問題が起きたかと聞くと、回答した学生が様々な問題点を挙げた。音声聞こえなかったり、途切れたり、聞き取りにくかったりした。また、「ずっと機械音みたいなものが鳴っていた時があって、その時は先生の声が途切れ途切れに聞こえていた」、「音が途切れたり画面が見えなくなったことがあった」、「先生の声が途切れ途切れで何を言っているかわからない」、「音がカクカクする」などの例も挙げた。さらに、「自分の音声が届かない」こともあった。

映像に関しても、同じような問題が起こった。画面が止まったり、画面共有の画面が途中で見えなくなったりした。主に音声と映像がともに切れるようだが、「声が聞こえているが画面が固まることがあった」というコメントもあった。Teamsのアプリが落ちることも起きた。

上記のコメントと合わせて、全体で見ると通信環境やWi-Fiに関する問題が多かった。「いきなり接続状況が悪くなって授業を数分間受けられなくなった」、「途中で回線落ちしてしまい、入り直すときがありました」、「電波状況が悪く、途中で繋がらなくなったり追い出されたりした」などのコメントがあった。ここで少し興味深いコメントも紹介したい。

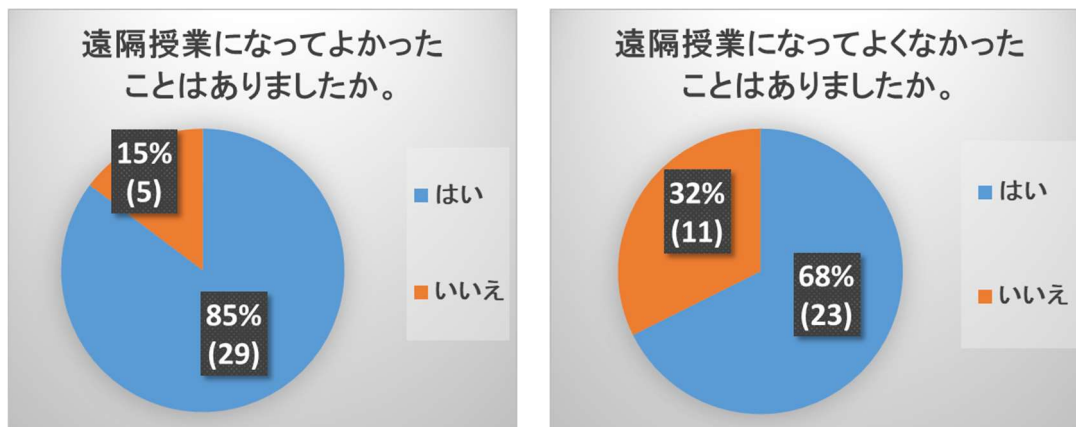
重くなったせいか授業中の小テストでぶちっときれたことです。ビデオ会議が切れたので途中で何をやっているのかわからなくなってしまったことが二度あります。その時はスマートフォンを使用していましたが、パソコンを使用するようになってからは何も不具合は起こっていません。

多くの1年生はスマートフォンで授業を受けていたので、通信環境によるこのような問題が多く発生したのも理解できる。

次は1年生に高校時代の対面授業と大学に入ってから遠隔授業の比較をしてもらった。34人中、18人(53%)が対面の方がよかった、10人(29%)は遠隔の方がよかった、6人(18%)はそれほど変わらなかったと答えた。遠隔授業になってよかったことはあったかという問いに、34人中29人(85%)は「はい」と答え(図1)、よくなかったことはあったかという問いに23人(68%)は「はい」と答えた(図2)。

図1 1年生春学期の遠隔授業でよかったことがあった回答者の割合

図2 1年生春学期の遠隔授業でよくなかったことがあった回答者の割合



この三つの質問の回答結果から分かることは、1年生全体の傾向は対面授業に傾いているものの、遠隔授業に対しても前向きに考えようとしている部分があることである。当然のことであるが、遠隔授業になってよくなかったことがなかったと思っている学生(11人)と遠隔授業の方がいいと考えている学生(10人)がほぼ同じである。しかし、結果をより詳しくみると、遠隔授業を好んでいるほとんどの学生も(9人)、何らかのよくなかったことがあったと答えている。問題の有無と授業形態の好みは直接関係していない。

具体的に「よかったこと」として、通学時間が不要のため、余裕を持って授

業を受ける準備ができた学生は多かった。通学に使った時間を「調べ物や学習に当てる」（原文ママ）や「終わったあとすぐ課題に取り組みたり、調べながら学習」できたりしたこともあった。場合によっては、「寝坊しても大丈夫なこと」や「ギリギリ起きても間に合う」というような、少し余裕を持ちすぎていることもあった。

健康面でも、よかったことがあった。大学に来なくてもよかったとき、「コロナにかかるリスクが減った」ことや、「体調が悪い時でも、家で楽な大勢で受けること」ができたのがよかった。体調管理がしやすいと答えた学生もいた。

何より、「楽」だったようだ。家では、「休憩時間にしっかり休憩ができる」とか、「集中しやすい」とか、「リラックスして受けることができ、内容が入りやすかった」などと、教室ではない場所で受けると自分のペース、自分のスタイルで授業を受けることがよかったと答えた学生が複数名いた。

加えて、実際の授業より板書が見えやすかったり、資料が手元にある関係でノートが取りやすかったりしたようだ。「忘れ物をする心配がない」、「課題の提出がしやすい」、や「機械の扱いに慣れてきた」ことをコメントした学生もいた。

「よくなかったこと」の具体例として、上記のような機械的な問題は多く出た。ほかにも、「スマホが熱くなって teams が落ちる」や「電子機器の操作において不慣れな点が多く大変だった」の回答もあった。機械的な問題以外にも様々な回答があった。目立った回答として、友達ができない・できにくい、またはそれにかかわる内容の回答が目立った。理解できないときに近くにいる人に聞けないから質問がしづらく、メールでの連絡だと伝わりにくいから直接質問したほうがいいと感じた学生もいた。

また、肉体的な疲れや集中力の低下を訴える回答もあった。長時間にブルーライト画面を見ていると目が乾燥し、視力が低下し、ひどい場合には目が痛くなって、頭痛や不眠になる場合もあったという。「よかったこと」として家で集中できると答えた学生もいた反面、家だと「他の者に気を取られ」て集中しにくい。授業中だと静かにしてもらわないといけないから、家族に気を遣わせてしまう。

個人的に興味深いコメントとして、「語学の授業だと発音のことが学びにくい」があった。語学の授業を行う教員として、悩ましいところである。教員も学生も納得できる教え方・学び方を考えなくてはいけない。また、もっとも辛口コメントとして、「すごく無意味な時間を過ごしている気分になる」、「先生も学生も慣れないこととして疲れる」というのがあった。一人だけのコメントだったが、ほかにもそう感じている学生もいる可能性がある。学生にそう感じさせているのなら、やはり改善していく方法を探す必要がある。

2) 2年生の春学期アンケート

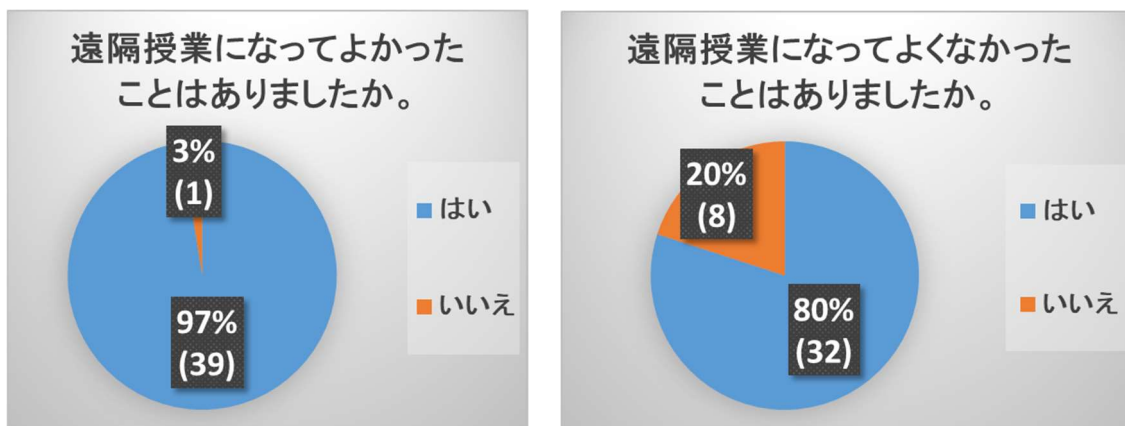
令和2年度の2年生は42人が在籍し、そのうちの40人(全体の95%)が春学期のアンケートに回答した。1年生と同じ設定の質問「遠隔授業は何で受けたか。」の回答結果は、スマートフォンで授業を受けた学生が33人(スマートフォンのみが24人)、ノートPCは12人(ノートPCのみが5人)、デスクトップPCは2人(デスクトップPCのみは1人)、タブレットは2人(タブレットのみは1)だった。複数の機器を使った学生は9人おり、1年生よりは利用した機器の組合せが多様だったが、もっとも多く利用されたのはスマートフォンで、回答者のうちの73%だった。

次に、「機器的な問題は何か起こりましたか。」に対して、40人中30人(75%)が「はい」と答えた。具体的にどんな問題が起きたかという点、やはり1年生が挙げた例と同様のコメントが多かった。音声や映像、通信環境の問題が多数指摘された。1年生よりも少し詳しいコメントもあった。「何も押していないのに突然会議から抜けてしまった」、「途中で何度か強制的に会議から退出させられる」など、強制終了や強制退室に関するものが目立った。また、「音声と動画が一致しない時がある」、「途中で音声も映像も止まってしばらくしたら倍速で流れていった授業があった」、「画面が途中で真っ暗になった」、「カメラが写らなかった」、「スマホでフォームズの回答する時、回答欄の直しがしづらい時があった」(原文ママ)、「通話に参加するボタンがたまにでこない時があり、授業に参加するのが少し遅れてしまうことがあった」(原文ママ)、「スマートフォンだと、画面が操作できないことが多かったり急に切れたりしてストレスになりました」、「ミュート ON/OFF の切り替えが一時的にできなくなる」、「先生の声やスライドは見えているが、アプリのアンケートなどの画面が真っ白になり、入ったり抜けたりしなければいけないことがあった」、「課題を提出するのが大変だった」など、学生にとっては問題対処もしなければいけないというストレスのある状況で授業を受けていたことが読みとれる。Teams がうまくスマートフォンやタブレットに対応していなかったのが原因の一つと考えられるが、通信環境の問題も大きかっただろう。

対面授業と遠隔授業の比較で、回答者40人中22人(55%)は対面の方がよかった、10人(25%)が遠隔の方がよかった、8人(20%)がそれほど変わらなかったと答えた。1年生の割合とほぼ一致しているのが面白い。遠隔授業になってよかったことはあったかという問いに、40人中39人(97%)は「はい」と答え(図3)、よくなかったことはあったかという問いに32人(80%)は「はい」と答えた(図4)。

図 3 2年生春学期の遠隔授業でよかったことがあった回答者の割合

図 4 2年生春学期の遠隔授業でよくなかったことがあった回答者の割合



この三つの質問の回答結果から分かることは、2年生全体の傾向は対面授業に傾いている。しかし、1年生よりも、遠隔授業の中の良かったことも見いだせたようである。遠隔授業を好んでいても（10人）、よくないことがあったと答えた学生は7人だったので、問題の有無と授業形態の好みに直接な関係がないといえる。

具体的に「よかったこと」として、1年生のコメントと同様のものは多かった。しかし、通学しなくてよいことから、ただ時間的な余裕ができたというだけではなく、「就活の勉強など、授業以外にやらないといけないことをやる時間が確保できる」やお金面で交通費やガソリン代がかからないことを挙げた。1年生より少し具体的なお回答である。

また、学習自体についてのコメントで、録画や録音機能の便利さを取り上げるものが目立った。「授業で分からなかったところとかの確認が出来る」ことや「何回も聞き直せる」ことの評価が高かった。その機能がテスト勉強にも役立つからであろう。同じ学習面では、「資料などを周りやに気を遣わずに広げられる」（原文ママ）、「最前列で受けている感覚なので、ホワイトボードもスライドも対面よりも見やすかった」や「発表者の声を自分で音量調節ができるため、聞きやすい」などと、学習の環境がより自分に合っているようなコメントがあり、「当てられた時に対面に比べて自分ひとりで考える力がつく」や「授業中に疑問が出たとき、ネットで調べることができて、意欲が出た」などの思考面・精神面でのよさを伝えるコメントもあった。

「よかったこと」のコメントとして目についたのは「家族と過ごす時間が増えた」というものである。少しうれしくなった。

続いて、「よくなかったこと」の具体的なコメントはより詳しい内容のものや1年生とは異なるコメントを紹介する。「対面よりも授業の内容が難しいし、

分かりずらいと感じることが多々あった」(原文ママ)と内容の難しさを訴えるものもあれば、運営面の問題を指摘するコメントも多かった。「出欠確認が微妙」、「配布資料を自分で印刷やそもそももらえないのが不便」、「提出もすべてネットからだったため慣れるまで少し不便を感じました」、「実践系の授業では、動画を撮ったりするのに手間がかかり不便に感じました」、「授業終了後に質問ができた時に気軽に聞けない」、「分からない時とかに質問しづらい、出来たとしても意思疎通がうまくできずお互いに理解するのが難しい」、「補講や中間テストの日程が突然決まる」、「学校に来て授業を受けるとき、受ける場所が使われていて困った」、「友達とすぐに意見交換ができない」、「自分が感想を言っているときや発表しているときに相手が反応しているのか、聞いているのか分からないくてやりにくい」など、学生への配慮の必要性が伝わるものがあった。特に

遠隔授業だからといって、授業時間内に終わらない課題が出ることでよくないことだと思う。対面授業ならばコメントシートや感想も授業時間内に終わるように配慮されているのに、遠隔授業ではなぜか時間いっぱい授業をした後に提出期限があるコメントシートや感想の提出を求められる。

のコメントがそう感じさせた。教員も不慣れな学生のことを考えなければいけない。

ほかには、疲労面や精神面のコメントとして、「目が疲れる」、「携帯やパソコンなどを使うため、肩こりが増えた気がします」、「集中しにくい」、「集中力が切れる」、「サボりやすい」、「自宅で授業を受けることで、授業とプライベートの切り替えが難しくなった」、「先生に質問したり友人と会話することが直接できないためストレスを感じるようになった」などがあつた。さらに、フィールドワークを楽しみにしていたのにできないことを残念に思っている学生や、携帯で受けているときの充電の減りが「尋常ではない」のコメントもあつた。

3) 1年生の秋学期アンケート

秋学期のアンケートには、44人の1年生のうち、33人(全体の75%)が回答した。数として、春学期の回答者(34名)とほぼ一緒である。まず、秋学期で受けた授業の形態について、遠隔授業がもっとも多かった。少ない人でも7つ、多くて14、だいたい学生は10以上の遠隔授業を受講した。対面は多くて3つ、1つか2つが多く、まったく対面授業がなかった学生も数名いた。遠隔と対面のハイブリッド形式について多くても4つ、だいたい学生は2つ

か3つだった。遠隔授業が春学期に続いて多いことから、「遠隔授業は何で受けましたか」の設問に対して、受け方が多様になった。最も多く使われた機器は春学期と同様、スマートフォンだった。また、スマートフォンを使った学生も春学期と変わらず24名だったが、スマートフォンのみが春学期の13名から7名に減った。ノートPCを利用した学生は18名から22名に増え、春学期に誰も使わなかったタブレットは2名の使用者に増えた。デスクトップPCの使用は春学期と変更なしの3名だった。機器の合わせ方が増えたことから、多少遠隔授業に慣れてきたと言えるだろう。

機器的な問題の有無について、「あった」と答えた学生が33人中20人(61%)いた。春学期に比べて、少し減った。またその問題について、春学期と同じようなものがほとんどで、回線やWi-Fiの調子が悪いと音声や映像に様々な問題が発生する。会議から退室させられることもあったり、「通信する人数が多いと重たくなってパソコンが停止」したりすることもあった。また、秋学期には「キャリア・プランニング」の授業でTeamsではなくZoomで受けることもあって、「学内のパソコンで受けた時、ZOOMの音声聞こえなかったり、共有画面が止まったままでした」というコメントがあった。おそらくこれもWi-Fi関連の問題だろう。

また、原因は何か分からないが、ある学生から「遅れて会議の表示がくるのでおくれて入ることになる」ことがあったようだ。さらに、あるTeamsの機能について

保存した画像にお絵描き機能で記入していたとき、声は聞こえるけど何しても画面が動かなくなって共有してもらっていたスライドも動かなくてミュートoffにできなかったりしたことが二回あった。お絵描き使ってないときはそんなこと起きなかったので授業中は使わないようにしている。

というコメントがあった。おそらくこの「お絵描き機能」とは、画像にメモを直接書き込めるものだと思うが、このような問題も起きてしまうようだ。

「対面授業と比較して、遠隔授業のほうが良いと思ったところはどこですか。」の設問に対して、春学期のコメントから少し変化が現れた。アンケートの時期が1月の終わりだったためか、遠隔授業だと悪天候や大雪に左右されず授業に参加できるというコメントが多くあった。また、新型コロナウイルスが島根県内に多く発生していたタイミングと重なったようで、それについて「今コロナが身近なところでクラスターになったりしているので遠隔だと外に出て感染する恐れがない」、「感染症対策になる」、「コロナにかかるリスクが

減る」、「密にならないのでコロナが多い時は集まるのも怖いので安心」、「まだコロナが出ていてなんなら最近の方が多いので遠隔でできることは遠隔で良いと思う」などのコメントが春学期のアンケートのタイミングより増えた。この点に関しては、遠隔授業が学生にとって大きな安心材料となったのである。

学習面では、遠隔授業だと自分のペースに合わせて学習し、力を伸ばせたりすることもあるという。「リラックスして授業そのものに集中できる」、「次の授業の準備がスムーズで急がなくていい」、「発表する時に緊張しにくい」、「挙手しやすい」、「広いスペースを使って授業を受けることができること。先生から離れていないので先生の発言を聞き逃すことがない。」、「自分で資料をズームアップするところができるため、文字が見やすいところ」、「タイピング練習になっている。パソコンに少し詳しくなった気分になった。」、「主体性が求められる現代で怠けず自ら進んで勉強するという能力がのびるところ」などのコメントがあった。

学生らしい発想のコメントも増えた。費用の面について「ガソリン代が浮く」、「交通費がかからない」、「交通費がかからなくて経済的に助かったところ」というコメントがあり、通学しない分、その時間をアルバイトに当てることができるというコメントもあった。また、あまり予想しなかったコメントとして、「交通事故に巻き込まれない」というのがあったが、運転免許取得から間もない学生だとこの心配もするだろう。さらに、「家事を手伝うことができる」を「良い点」と考える学生がいて、個人的によかったと思う。

4) 2年生の秋学期アンケート

秋学期のアンケートには、42人の2年生のうち、26人(全体の62%)が回答した。春学期に比べて、回答者がかなり減ったが、そもそも強制ではないうえ、卒業研究発表会後の回答依頼で、最後のテスト勉強に取り組んでいたり、回答する気が起きなかったりしたことに理由があるだろう。回答者が減ったことによって、数字の動きについてあまり明確なことは言えなくなるが、コメントを中心に見ていこう。

まず授業の形態についてだが、総合文化学科の2年生の秋学期は、あまり授業を受講しないのは事実である。その中で、回答から見ると遠隔・対面・ハイブリッドはほぼ均等な数になっている。その中でも、対面は少なくとも1つ、遠隔が全くないというのが面白い結果だった。また、遠隔授業を受けるときに何を使ったかの問いに対して、やはりスマートフォン使用が最も多く、26人中21人が使って授業を受けることがあった。

機器的な問題が起きたと答えた学生が26人中16人(62%)と春学期の75%に比べて減ったが、母数も減っているもので、これだけではそこまで言えない。しかし、1年生の秋学期の回答に比べると割合がほぼ一緒なので、機

器的な問題が少し改善されたのではないだろうか。具体的にどの問題だったかという、春学期と同様の問題もあったが、「たまにスマートフォンから会議に参加できない」、「アプリが強制終了して会議から落ちてしまう」、「画面共有が反映されない」、「先生が出している資料が見えない」ともあった。また、1年生でも起こった問題だが、「会議に参加するボタンが表示されず、会議に参加できないことが何度かあった」という経験をした学生もいた。

遠隔授業の方が良い点として、主に Teams の機能、授業の受け方、そして安全性が評価された。録画機能で授業を見直すことについて評判がよく、また「個人チャットを利用できる」と「ほかの人の意見を共有できる」ところがよかった。授業の受け方について、「リラックスしてできる」、「あまり緊張せず、少し発言しやすかった」、「質問しやすい」と答えた学生がいた。また、新型コロナウイルスに対して「感染対策になる」、「感染する不安が少し取り除かれるところ」、「心配がないところ」のコメントがあり、学生の不安を遠隔授業がある程度取り除いていることも分かる。

4. コメントの総まとめ

1) 遠隔授業と対面授業の違い

1年生には春学期、2年生に春・秋両学期で、遠隔授業と対面授業のどこに一番大きな違いを感じたかを問うた。

1年生のコメントを大きく分けると、目立ったテーマが二つあった：「人間関係」と「授業」。「人間関係」のテーマに当てはまるコメントは「周りに人がいるかないか」、「グループワークができない」、「人が近くにいるかないか」、「周りとは相談しながらできないこと」、「授業を楽しくできるかということ」、「実際にその場で皆と活動が出来るか出来ないか」、「1人で授業を受けている感じがする」、「話す回数が少ないので友達が出来ずらいなと思いました」（原文ママ）、「他の生徒とも会わないので、大学に入ってから新しい友達はできませんでした」、「相手が実際に見えるか見えないかでは、実際に会っているわけではないので声を出して発表などが少しやりづらかった」、「やらないといけなことが、周りを見て判断とかできないし、周りの人がどのくらいできているのかなどが分からないため、不安になることところ」だった。密を避けるために大学に来させず、遠隔で授業受けるとやはり人とのかかわりがなくなるが、1年生には少し重かったように思う。

「授業」のテーマに当てはまるコメントは「自分の意見がいいにくい」、「質問や相談がなかなかできない」、「授業中ディスカッションができないため、他の人の意見を聞くことがあまりできない」、「宿題をきちんと提出出来ているかが自分で分かりづらいところに違いを感じました」（原文ママ）、「授業の内容

が最後まで問題なく聞けるか聞けないか」、「授業内容を全て聞き取ることが出来るか出来ないか」、「生徒の反応が先生に伝わらないこと」、「こちら側の顔を見せることが無いので分かったか分からないかが伝わらないところ」、「相手の顔が見えない不安はあった」、「授業内容の理解の差」、「分からないことをその場で気軽に聞くことが出来にくい」、「声だけしか知らない先生には質問とかし辛い」、「顔や表情、他の生徒の様子がわかるかわからないか、ということが大きな違いだと思います」、「先生や生徒の表情が分からない」、「遠隔授業では授業を受けている人や、先生の顔が見えないことがあることです。そのため、その人が感じていることや思っていることを声だけで判断してしまうため、話すことが難しいと思いました。」加えて、このようなコメントもあった：「逆にみんなの顔が見えないので顔色を伺わずに自分の意見がはっきり言えるところ」。学生によってやはり合う授業形態と合わない授業形態があって、すべてに対応するのが難しくても、発言のしやすい授業づくりに取り組む必要はある。

ある1年生から「変化がわからないところ」というコメントが出て、気になった。ずっと家にいて遠隔で授業を受けるといろいろな感覚が麻痺してくるだろう。すでに紹介しているコメントでも、授業とプライベートの切り替えが難しくなったり、集中しにくくなったりする学生も多く、こちらのケアにも注目したほうがいいであろう。

2年生の春学期と秋学期のコメントでは、1年生と同じものも多かったが、「コミュニケーションの取り方」についてコメントが目立った。「先生に質問したときに質問の答えが返ってくるまで時間がかかる」、「人と相談することができるかどうか」、「対面の方が話し合いがスムーズな気がする」、「遠隔授業は生徒の顔が見えないので顔が見える対面授業よりリアクションがわかりにくいこと」、「直接会って話せるかどうか。遠隔だとどうしても意思の疎通が取れない場合があるから」、「質問がしやすいか、しにくいかな」、「授業中困ったことがあっても相談相手がない」、「生徒同士の意見交換が少ない点」、「遠隔授業だと自分から発言がしにくかった」、「自分の解釈と先生の考えが一致しているか分からない点」、「説明に時間がかかる」、「ほかの人の考え方・思ったことを知ることができないところ（少人数の授業以外で）」、「先生のコメントに対する反応のしやすさが違う。対面の方が反応しやすい。」、「対面授業に比べて遠隔授業では個別の質問がしにくいこと」、「対面授業だと、グループワークや質問を答える時にお互いのタイミングを見計らって話すことができるけど、遠隔授業だと話すタイミングが分からない。」加えて、このコメントは春学期のアンケートの回答だが、「1番大きな差は質問や意見などをどれだけ言えるのかと言う事だと思います。最初の方はみんな無反応ということも結構あったのですが、今は最初に比べたらかなり意見などが出やすくなっているのではないかと

など思いました。」というのもあった。

さらに、「授業の内容」についてのコメントもいくつかあった。「授業の中身が変わったこと」、「直接指示や指導が受けられるかどうか」、「課題の内容」、「グループワークがしにくいところ」、「授業の伝わる内容。対面だと完璧に伝わるが、遠隔だと途切れた時に聞き逃してしまう。」、「資料の見やすさ。(スマホで受けるとどうしても見づらい。）」、「授業のわかりやすさです。対面の方が内容が入ってきやすいですし、わからないことをすぐ聞けます。」などだった。

また、上記のテーマには入らないが、共有すべきコメントがほかにもあった。「大学に通っている感、授業を受けてる感がない」、「理解が難しくなる」、「授業を受ける環境。自分の部屋で受けているとどうしても気が抜けてしまう時が何度かあった。」、「遠隔授業の方が、少しでも気を抜くと置いていかれるように感じました」、「皆の顔や授業の様子を感じ取りながら受講することができないので、対面授業よりも集中できる日と、できない日の差が少し大きいように感じました」、「モチベーション。対面の方が周囲に人もいるのでモチベーションは対面の方が上がる。」、「誰にも会わずに授業をするストレス」、「授業で使用するプリント類がもらえなかったりする点。家で1人で受けているから、友達と協力がしにくかった。」、「先生が学生の行動を把握できるか否か」のコメントは特に考える材料となると考えた。特に最後の学生の行動を把握できているかどうかというコメントは、重要な指摘である。現状は遠隔で画面を OFF にしているうえ、お互いの信頼関係で授業を進めている。早急に対策を考えなければならない。

特定の授業についてコメントがあった。「読み聞かせの授業で、自分が読み聞かせをしている動画を撮ったが相手がいないのでやりにくかった。対面で読み聞かせをしたときは、相手がいるので反応も分かりやすいし楽しくできたところ。」とのことだが、実践系の授業を行っている教員にとっては特に遠隔授業が悩ましいものだったのではないだろうか。

また、上にあった「授業を受けてる感がない」のコメントと関連するが、「遠隔は家で1人で受けるため、対面の時とは異なり、授業を受けているという感覚があまり無くなってくるところだと思います。レポートなど、人ではなく常に電子機器と向き合っている感じがするからです。」とより詳しく述べた学生もいた。「授業」というものに対する固定概念の関係もあるだろうが、遠隔授業の中で学生が「学んでいる」と感じる工夫も必要に思う。

2) 改善点・配慮してほしい点・自由記述

(1)1年生の改善・配慮してほしい点

春学期のアンケートで改善点として、もっとも多く出たのは通信環境についてのコメントだった。その環境で問題が起きないようにしてほしい、環境が悪

いことを理解して配慮してほしい、問題が起きた時の対策として録音・録画を残してほしいとのコメントは、当然の願いであろう。ほかには「スマホで受けているため、充電しながらだとイヤホンが使えず、先生の話とうまく聞き取れない時があるので、なるべく、先生自体の声を大きめにしてほしいと思う」、「もっとグループワークを増やす」、「時間通りに始めてほしい。休憩時間を入れてほしい。目が痛い。」、「板書が追いつかないときがあるので、パワポなどでの授業の際は、ページをめくるのを少しゆっくりにしてほしい」、「先生に質問、相談をしやすい場がほしい」、「テストの問題の出し方の予行練習がしたいです」、「Formsなどで提出物を提出する際に確認メールが受け取れる設定にしておいてほしい」、「電波などの問題で分かりづらかった部分などがあるので、授業のまとめなどを簡単でいいので最後に出してほしい」、「授業の終わりに、Formsで音声や画質がどうだったかなどの簡単なアンケートを実施してほしい」、「ホワイトボードにかぶって見えない時があるからかぶらないようにしてほしい」、「90分画面を見続けるのは疲れるので、授業中に休憩をとったり、授業時間を短くするような配慮をしてほしい」というのもあった。

また、秋学期にその配慮で時間割が組まれたが、学生から

一部の授業は遠隔、一部は対面という形にするのであればできれば日にちをまとめていただきたいです。例えば1限は遠隔、2限は対面、3限は遠隔というような予定の場合、前後の授業をどこで受ければいいのか、時間に間に合わないのではないかという不安が出てきます。

の提案もあった。

秋学期では、通信環境についてコメントが少し減った分、多様なコメントが増えた。「次の授業の連絡事項のメールをもう少し早めに送って貰いたい」、「回線落ちしてしまった人への対策。授業で使う資料を保存したい」、「提出した課題に対してのレスポンスが欲しい」、「テキストを読むだけで、説明を聞けない、質問がしづらい」（原文ママ）、「リアルタイムの授業なのか動画を見る授業なのか当日にならないと分からない時があり困ったので、しっかりとわかるようにしてほしい」、「資料をアップロードしてほしい（短時間でまとめられないため）」、「ホワイトボードが遠い」、「声だけなので伝わりにくいことがある。自宅で受けるため学校に行く対面授業と比べて、授業と授業時間以外のメリハリが付きにくい。」、「点呼と出席確認のforms二つある授業があるのでどちらかでもいいと思った」、「割り当てに人によって時間差がでる点」、「90分画面を見ていると集中力が続かない点」、「質問がどうしてもしづらい。自分があっているのか不安になる。メール授業だとなにでも評価されているのか分からない。」、

「先生の電波環境が悪いと授業自体がまともに受けられないのでそこは困りました。あと、寮で授業を受けている人は寮の Wi-Fi が貧弱なのかよく音声が途切れていたのでは寮の通信環境を改善してほしいです。」などがあつた。

(2)1 年生の自由記述

1 年生の春学期の時の自由記述で「遠隔でも意外としっかり学ぶことができるということが分かって、新しい大学生活のあり方だなと思った」、「学校に行かなくて良いのは最高。ただ、生活に張りがなくなっていきそう。」、「あまり当てないで欲しい」、「色々とやり方がわからないから、課題の提出などが上手く出来ないかもしれない。救済制度として最悪、課題の提出を先生にメールで直接することを許してほしい。」、「非常に良い経験になった。(パソコンでのタイピング速度が速くなった。）」、「うまくパソコンが作動しなかったときの先生の対応がよかった。」、「対面授業が始まってから、どうしても学校で授業が受けられない時に遠隔で参加できたらいいと思います。」、「家と大学の往復 2 時間のロスがなくなったことで勉強の時間もとれるしバイトとの両立もしやすかった。これからも遠隔でもできる授業は遠隔の方がありがたいという気持ちもある。」、「家に他にも遠隔授業をやっている家族がいたり、親がコロナの影響で家にいると家の音が気になり、家族が静かにしてないといけない状況に困っています」とあつた。寮で授業を受ける状況について

寮で授業を受けていますが、特にここ 1 ヶ月で teams から追い出されてしまうことが多発しており、上手く授業に参加出来ないのが辛いです。また、長時間画面を見ているせいかイヤホンによる音酔いや画面酔いがあり、体調が優れなくなることがあつたのでそこも辛いです。他にも、パソコンから受けている人がグループ課題等でまとめ役や編集作業をやることになってしまうのもどうなのかな、と思いました。

と述べた学生もいた。

1 年生の秋学期の自由記述の多くは次年度に向けて授業の在り方について述べている。すべてではなくても、遠隔継続希望のコメントは多かつた。「遠隔授業が不便だと思った事は一度も無いし、またコロナの感染者が全国的に増えてきている状態なのでこのまま対面授業は少なめで、遠隔授業をメインにしてもらえたらいいなと思っています」、「他の県でもコロナが増えているため、対面授業を行うのが心配なので春学期もなるべく遠隔授業が良いなと思いました」、「在宅ワークを行っている企業も増えていると思うので、遠隔授業でそのような状況に今から慣れることができるのは良いと思います」、「私は対面よ

りも遠隔の方が受けやすいと思う」、「春からも遠隔授業にしてほしい」、「遠隔に慣れたので急に全部対面になったりしたら大変そうだなと思いました」、「遠隔と対面の割合を半分にしてほしい」、「今後の授業の在り方の一つに遠隔授業はいい方法だと思った」、「機械の扱いに慣れたため、春学期に比べて授業や課題をしやすくなった」、「遠隔授業と対面授業を続けて入れられると少し大変です」、「遠隔授業の前後に対面授業を受けるのは大変なので辞めてもらいたいです」、「遠隔授業と対面を交互に入れなくてほしい」、「遠隔授業でも授業を受けられることが分かりました。対面より遠隔のほうがいいなと思います。」、「大学に行くよりも、時間や金銭面で余裕が持てたのはよかったです」、「自分は通学時間が長いので遠隔授業で助かっている部分も多いです」とあった。対面授業について、「遠隔でのカメラオンよりは対面で顔合わせの方が話しやすい」、「ずっと遠隔授業はしんどいです」、「そろそろ対面授業がしたいです」、「対面でできそうなやつは対面でやりたいです」と、もう少し対面授業を希望する声もあった。

そのほかに、「課題か、課題でないのかわからない時があるので、投稿に掲載してくださるとありがたいです。」、「オンデマンドの授業では先生とのやりとりがメールしかないので出来れば早めに返信を頂きたい」とあり、

資料を目の前で共有してもらいながら授業を受けれる、という点はすごくいいと思います。ですが授業で使った資料などが手元に残らないことも多いので後で復習しようと思ったときにとても不便です。だから先生方が使った資料をファイルにアップして残してほしいなと思いました。

と今後の遠隔授業についての指摘もあった。

(3)2年生の改善・配慮してほしい点

2年生の春学期では、通信環境についてのコメントや、大学からの支援について、印刷・通信費を取り上げたコメントもあった。また、発言や質問をしやすい環境づくりを願っている学生も目立った。復習のためなどにレコーディングを希望している学生もいた。具体的なものとして「授業ごとに出される課題がきちんと提出出来ているのかの明確な確認手段が欲しい」、「電波が悪くて接続が切れたときに欠席扱いにしないでほしい」、「先生方によっては、会議中に会議チャットを送っても読んで頂けないことがあったので、通知をオンにして頂くなどの配慮が欲しい」、「講義形式のビデオを見る場合は、字幕を付けたら聞き取りやすいのではないかと思います」、「動画などを使って授業をする場合には、下に URL を貼っていただくと助かります」、「言葉だけで

なく、できれば画面に表示してもらおうとスクリーンショットもでき、内容が頭に
入りやすい（テストに向けて復習できる）」、「サボりがちになってしまうの
で、意見とか求めるようにしてほしい」、「動画を各自で見る授業では動画の
容量が重く映像や音声は頻りに止まるため、動画はできるだけ短くして頂きたい」、
「課題や感想をメールなどで提出することが増えたが、上手くいかない
こともあるので締め切りに余裕を持たせてほしい」、「なるべく早めに補講や
テストの連絡をしてほしい」などと興味深いコメントや反省させられるコメン
トもあった。少し長めのコメントを二つ紹介したい。

スマートフォンで授業を受けているため、資料の印刷などができない
ことを配慮して頂きたいです。またこのことに関して、大学に来たら
印刷できると言われる先生もいますが、自分は大学まで距離があるた
め授業などの関係上、大学まで行く時間があまりとれません。そのこ
とを理解して頂きたいです。

レポートの提出や感想文の提出など、課題として出る提出物につい
ては納得できるが、毎回のコメントカードなどの対面であれば授業時
間内に書いて提出するようなものについては、授業時間外に作業を求
めることに少し不満も持つ。学校側も試行錯誤してくださっているの
は分かっているが、配慮していただきたいと思った。

秋学期のアンケート回答には、春学期と似ているコメントが多い。それ以外
のコメントとして、「対面ではないため、授業のペースが早かったり遅かった
りして、ついていきにくいところがある」、「体育や実習は遠隔授業で行うのは
難しい」、「授業によって遠隔授業の難易度に差がある（レポートの提出頻度な
ど）」、「授業に集中しづらい、機械のトラブルがあった場合、対処に時間がか
かるところ」、「連絡事項をハッキリと示して欲しかった」、「ちゃんと聞こえて
るか先生が学生に問いかけてほしい」、「授業資料の配布をしてほしいと思う。
授業によってはスライドだけのものがあり、見返したい時に見返すことができ
ない。お手数だと思いますが、チームスの方で PDF でも良いので簡単にまと
めてあるような資料を載せていただくと復習がしやすいです」というものが
あった。

(4)2 年生の自由記述

春学期の自由記述には前向きに状況をとらえているコメントがいくつもあ
った。「遠隔授業でちゃんと身になっているのか不安に思います。テストのこ
とが心配です。」、「最初は不安でしたが、今は慣れてきたので前よりうまく

使えるようになりました。遠隔授業も面白かったのでよかったかなと思います。」、「個人的には、遠隔授業になったことでメリットの多いことの方が多かったので、今後も続けて頂けると嬉しい」、「遠隔でもできることが多くあるんだなと感じました」、「便利なことも多かったので、遠隔を完全にやめるのではなく、臨機応変に続けてほしいと思います」、「私たちが快適に受講できるようにたくさん工夫して下さってありがとうございます」、「特別な問題はなく、リラックスしながら授業を受けることができます」、「遠隔授業はそのときそのときによってさまざまな問題が出てくると思うから、臨機応変に対応していきたい。不安もあるが今のところ大きな問題はなく授業に取り組むことができている。」などがあった。

厳しいコメントや不安を表しているコメントもあった。「もともと学びたかった内容が十分に学べていないと思うので、残念に思います」、「家でできることはいいことだが、だらけてしまうので対面がいい」、「テストなど具体的なことがまだ何も言われていないので、これからどうなるか不安しかありません。友人達に会う機会がかなり減っていて、このまま来年社会人になるのはとても大変だしどうしようかなという先の心配が今はかなりあります。」、「遠隔授業だとだらけてしまったり、友達に会えなかったり、分からない時にすぐに聞けないなど不安があるので、早く対面になって欲しいと思います」、「授業によっては初めて受ける先生もいて、質問をしたくてもしにくい感じはありました」

また、

遠隔授業になって、良いことも悪いこともあります、安心して授業を受けられるのが一番大切なことだと思うので遠隔になって良かったと思います。先生方も、初めてのことばかりで大変なはずなのに生徒にしっかりと気配りをしてくださる方が多くて改めて有り難いと感じました。まだまだ、どんな状況になるかわからないため、遠隔授業等を上手に活用していただきたいです。今後ともよろしく願いいたします。

と教員と学生の双方の側から考えているコメントがあった。

秋学期の自由記述では、問題を提起しているコメントが少し増えたと思う。「遠隔なのはいいけど、自分で読んで自分で課題をこなすだけの授業は大学の授業としてどうなのかと思いました」、「遠隔だと途切れたり、会議に参加出来なかったりと不安なことが起こる。学校で友達と受けていたらなんとかなるが、家で1人で受けていたら対処できなくて焦ってしまう。授業を聞き逃して

しまうのは勿体ないように思います。」「自分自身も周囲の人も含め、遠隔授業だとどこことなくモチベーションが上がらない印象を受けた」、「遠隔授業は家での様子が先生側に分からないので、お菓子を食べたり、絵を描いたり何でもし放題すぎたので、集中力が持ちませんでした。今後、授業をする時はフェイスモードも使用しながらがいいんじゃないかなと思います。」「個人的には遠隔授業の方が対面授業より色々な面で楽ですが、授業をしているという実感がいまいち沸きにくいのが難点だと思いました」、「授業の開始時間になっても会議が始まらないときがあると、『今日授業あるかな?』みたいに不安になりました。会議は、授業開始時間前から開いておいて欲しいです。」などこめんともあった。

しかし、それだけではなかった。「顔だしをせず、マイクも基本オフだったのはやりやすかったしすごく有難かった。でも、できるだけ対面授業がいいなと思った。」「teamsの使い方がわかったらとても便利な授業の受け方だなと思います」、「聞く授業については遠隔でも良いと思います。しかし、実践的なことをする授業については毎回対面でやっていただけると理解が深まると思いました。」「春学期より遠隔授業に慣れたので、遠隔授業に対してあまり不安がなくなった」もあった。最後に3つのコメントを紹介したい。

先生も遠隔に慣れていないので、やりにくく大変だろうと思いつながら授業を受けていました。こちらとしては交通時間などがかからなく、楽なので良い点もありました。しかし、対面のほうが集中して聞けるし、先生ともコミュニケーションがとれるのでやはり対面の方がいいなと思います。

コロナウイルスの影響で、遠隔授業になったことで感染への不安や移動時間が無くなり楽になった面もありました。しかしこの1年間、大学にほとんど行くことができず、写真を撮る時までもマスクだったり、少し寂しい思いもありました。しかしこの状況はまだ続きそうなので、遠隔、対面を上手く取り入れながら今後も授業があれば良いなと思います。

遠隔授業をすることで、スマホやパソコンでオンラインの授業をした、という経験になったのは良かったと思います。正直、寝坊してしまっても準備をしなくていいので遅刻をする可能性が低くなったことも良い点だと思いました。みんなに会えないのはさみしかったし、大学生活っぽいことがあまりできなかったのが後悔ですが、遠隔授業は必要

だったと思います。

3. おわりに

この報告書の中には、学生からの評価や問題提起がたくさん存在する。すぐに解決できるものはそう多くない。それでも対応できるものがあるので、できるところから変えていけば、より良い学習環境が作れるはずである。総合文化学科では、次年度からノートパソコン所持を推奨することとした。スマートフォン関連の問題は少し解消できるだろう。

コロナ禍のこの1年間、教職員と学生が必死に新しい生活・仕事・学びの様式に順応しようとしてきた。我々教員は必死過ぎてほかのことに気づかないこともあったのではないか。そのことで、松江キャンパスで授業を受けている学生についての理解が難しくなっていたと考える。学生の立場に立ち、コロナ禍を見直す必要があると思い、このアンケート調査に到った。この報告書内の学生の「声」を聞いてほしい。